

彩ちゃんの入院後からご永眠されるまでの経過をご報告いたします。

彩ちゃんは昨年平成 20 年 8 月に我々の慈恵医大病院に入院されました。レントゲンで心臓は大きく拡張しており、心エコーでは左心室の収縮力の著明な低下を認めました。これらの結果などから拡張型心筋症と診断いたしました。

拡張型心筋症は原因不明の難病であり、重度の心不全症状を呈します。彩ちゃんもこれによりりい瘦、易疲労感、汗をかき易いなどの心不全症状を認めていました。そのため 5 種類の心不全の対する内服薬を開始しましたが症状の改善は得られませんでした。通常はこれらの治療で少なくとも病状の進行を抑えることが出来ますが、心不全の重症度の指標である BNP 値は緩徐ですが増悪傾向を示しました。治療薬で心不全の進行が抑えられ、彩ちゃんの体格が少しでも大きくなれば治療の選択枝を増えますが、それらの所見から早期に心臓移植を行なう必要があると判断いたしました。

ご両親に現状を説明し、大変な決断であったと思いますが海外での心臓移植を行なうことになり準備を進めていました。移植受け入れの承諾を得た米国スタンフォード大学から渡米前に心臓カテーテル検査で肺血管の状態を検査するよう指示があり、11月に検査を行ないました。しかし検査中に容態が急変し補助循環という人工的に心臓の機能をサポートする必要が生じました。その後もいち早く渡米できるように医療スタッフ一同、全身状態の改善に努めましたが、感染症、頭蓋内出血などの合併症も重なり、すでに相当なストレスに耐えていた彩ちゃんの内臓は限界を超えました。12月20日未明、心臓のストレスが極期に達したために重症な不整脈である心室頻拍、心室細動が出現し、治療にも反応せず彩ちゃんは天国へ召されました。

彩ちゃんの死後、心臓は拡張型心筋症の原因解明に役立てて欲しいというご両親の意向に沿って病理解剖を行いました。詳細な検査結果は後日も報告いたしますが、彩ちゃんの血液検査を慶応大学で行なった結果、1アドレナリン受容体抗体、ならびにムスカリン M2 受容体抗体が非常に高値であったことが判明しています。これらの抗体がどのような機序で心臓を蝕んでいくか解明していくことが彩ちゃん、ご両親、サポートいただいた方々への責務であると考えています。

最後になりましたが、短くも多くの方々に愛され壮絶に生きた彩ちゃんのご冥福を心よりお祈り申し上げます。

平成 21 年 2 月
東京慈恵会医科大学小児科

浦島 崇